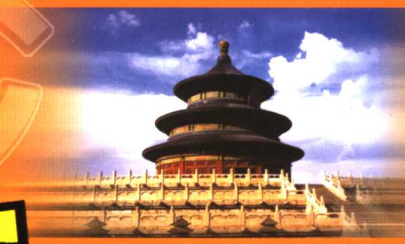
ちゅうごくペキン



日语北京导游

徐 跃 小池晴子◎编著

にほんごによる
ペキンあんない

中国旅游出版社

日语北京导游

にほんごによる ペキンあんない

徐 跃 小池晴子◎编著

中国旅游出版社

责任编辑：付　蓉
装帧设计：缪　惟　刘豪亮
责任印制：李崇宝

图书在版编目（CIP）数据

日语北京导游/徐跃，（日）小池晴子编著．—北京：中国旅游出版社，2006.9
ISBN 7-5032-2982-9

Ⅰ．日…　Ⅱ．①徐…②小…　Ⅲ．旅游指南-北京市-日文
Ⅳ．K928.91

中国版本图书馆 CIP 数据核字（2006）第 120168 号

书　　名：日语北京导游

作　　者：徐跃　（日）小池晴子　编著
出版发行：中国旅游出版社
（北京建国门内大街甲 9 号　邮编：100005）
http：//www.cttp.net.cn　E-mail：cttp@cnta.gov.cn
发行部电话：010-85166507　85166517
排　　版：北京中文天地文化艺术有限公司
经　　销：全国各地新华书店
印　　刷：北京建筑工业印刷厂
版　　次：2006 年 10 月第 1 版　2006 年 10 月第 1 次印刷
开　　本：787 毫米×1092 毫米　1/16
印　　张：16.5
印　　数：5000 册
字　　数：335 千
定　　价：32.00 元
ISBN 7-5032-2982-9/K·1099

版权所有　翻印必究
如发现质量问题，请直接与发行部联系调换

徐 跃

北京联合大学旅游学院副教授。北京第二外国语学院分院毕业。1994年被评为北京市优秀青年骨干教师。1996年以来任北京旅游局初级导游员资格及中级导游员水平考试（口试）评委。

小池晴子

日本早稻田大学毕业。从事翻译业。日本观光翻译协会会员。日本国内观光翻译、JTB海外旅游领队、短期大学讲师。1993年起先后5年任北京联合大学旅游学院文教专家。译著有《ヤング・ジャパン》（共译）、《中国 伟大な世界》、《古き北京との出会い》、《宾馆饭店日语教程》（共著）。

郑友惠○ 录音者

播音名郑湘，中国国际广播电台日语部播音指导。生于日本，毕业于大阪基督教大学教育系。20世纪60年代起在中国国际广播电台日语部从事播音工作，多次主持、承担了大型特别节目的播音与日语教材的录制工作。享受国务院特殊贡献专家津贴。曾担任北京联合大学旅游学院日语系学生发音指导。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

序

北京大学教授　賈蕙萱

このたび『日本語による北京案内』が出版される運びとなりましたことを大変嬉しく思っています。周知の通り、現代における観光は相互に異文化を知り、楽しみ、心身を養うことを目的とする人類普遍の活動です。1978年から、中国は改革開放政策の実施を進め、特に鄧小平氏が「発展はゆるがせない道である」と呼びかけて以来、各界ともに溌剌とした繁栄振りを見せはじめました。観光業も例外ではなく、中国の中堅産業の一つとして迅速な発展を見せてきました。中国はいま2008年北京オリンピック大会をまえに、あらゆる方法を講じて観光環境を整え、観光業のいっそうの飛躍を目指しています。今後、観光業の前途は洋々として、観光客も増加の一途をたどるであろうことは疑いありません。

徐躍氏と小池晴子氏はともに教育に携わってきました。特に中日両国の観光業に精通し、長年積み重ねてきた経験をもとに、各観光箇所の構造・形態と歴史的文化的精髄を的確に把握し、詳細かつ生きた日本語で描き出し、写真と図表を加えて、優れた『日本語による北京案内』にまとめました。読者の皆さんにその全貌をよくご理解いただくために、本書の三大特徴を大まかに紹介しておきます。贅言をお許しください。

日本語による北京観光学の専門教科書

編著者は二人とも観光学に深い造詣を持っている方です。徐躍女史は北京連合大学旅遊学院助教授で、同学院で20余年間教鞭をとり、1994年に北京最優秀教師にも選ばれたことがあります。彼女は長年日本語教育に励み、2000年以降は観光学教育にも邁進してこられました。先進的なマルチメディア技術とIT機器を駆使して、日本語による北京案内の講義を展開してきました。論文「日本的“新旅游法”及其思考」は、広く好評を得ています。

小池晴子女史は日本観光通訳協会会員で、英語に精通し、同時に日本語教育

にも関わってきました。長くJTB（日本交通公社）で国内観光通訳、海外旅行コンダクターとして活躍、国際的視野を持っている方です。豊かな学識があるため、日本短期大学に招聘され教鞭をとっていました。その豊富なガイド経験と観光学に対する深い理解に鑑みて、20世紀90年代、前後5年間北京連合大学旅游学院の招聘に応じて日本語と観光学を教えました。

二人の教師は幾たびも真剣に討議を重ね、多年にわたって積みあげた経験と、これまで個別に作成してきた教材と資料をまとめて一冊の本に編集し、中国の観光事業と中日文化交流の促進に役立てようという点で、最終的に合意しました。このため編著者たちは、文献をさらに深く研鑽するとともに、北京の観光資源を何度となく自分の足で歩き、一つ一つ自らの目で確かめてきました。さらに各観光現場で直接資料を掘り出して分析し、疑問点には回答を求め、専門家と検討しては原稿を書き直し、ついにご覧のような日本語による北京観光学の教科書を練り上げました。

北京観光学の文化知識庫

編著者は観光資源に対する知識と観光業におけるその実際的運用、さらにその知識が科学的客観的事実に基づくものであることを非常に重要視しています。そのため純粋に事実を文章で表現した部分と、ひと目で分かる図表にした部分があります。北京の歴史文化遺産を客観的に紹介すると同時に、客にうちとけた話題を提供するため通説や伝承などもとりいれた苦心の「ちょっとした話題」もあります。中日対照年表、北京歴史年表などの情報も盛り込んでいます。また北京独特の文化と情趣を書き入れるように細心の注意を払っています。

最も人気のある「天安門と天安門広場」、「故宮博物院」、「天壇」、「万里長城」、「明十三陵」、「頤和園」という北京の六大観光箇所と、北京っ子の本当の生活がわかる「胡同めぐり」、新しい観光スポットの「北京水上遊覧」などもこの本の中に納められています。『日本語による北京案内』は、まず第一編を読めば北京の主な観光地が初心者にもおもしろく的確に分かります。

同時に、何度も訪中した客の「もっと北京を知りたい」という要望にも応えました。後者のために第二編に七つの観光箇所、「北海」、「雍和宮」、「北京孔廟と北京国子監」、「周口店原人遺跡」、「潭柘寺」、「白雲観」、「円明園遺跡公園」について詳しく紹介してあります。いずれも文化的興趣のつきない名所旧跡です。この本を読むことによって、文化的素養を一段と高めることができ

るでしょう。

『日本語による北京案内』は、日本語観光ガイドおよび観光ガイド志望者にとって、待望の画期的専門教科書であることはいうまでもありません。しかしそれにとどまらず、日本人および日本語の分かる観光客にとってこれまでにない貴重な観光案内書でもあります。日本の方が北京を理解するよき師よき友にもなることを信じています。

これまで北京を紹介する日本語ガイドブックはごく簡単なものばかりで、観光学という視点から系統的に日本語で北京の観光資源を解説した専門書は全く見られませんでした。この教科書は北京観光学に関する知識の宝庫といえましょう。

『日本語による北京案内』の編著者は、日本語教育の長年の経験者でもありますから、日本語にも精通しています。全篇は正しい日本語、特に日本人が聞いて分かる日本語で書かれています。解説文の後に「難しい読み」をつけて読者の読解を助け、付録に観光にまつわる日本文化「豆知識」をつけて、読者の学習と理解を図るようにしています。正しい日本語と日本文化を学ぶための補助的資料だと思います。

本書はまた中国国際放送局日本部の著名アナウンサー専門家鄭友恵先生を特別招請して朗読を依頼し、CD ロムを製作して付しています。「鄭湘」というアナウンサー名を持つ鄭先生は、日本生まれの日本育ち、60 年代から同放送局で放送係を始め、後にアナウンサー指導も担当、中国国務院から「特別貢献専門家手当」を与えられています。日本にも多くのファンを持っておられると聞き及びます。抜群の日本語能力の持主で、アクセント、イントネーションともに国家レベルで、日本人以上に優れた一流のプロフェッショナルといわれています。彼女の美しい日本語で語られる北京案内を聞くことによって、日本語の聴解力を高めると同時に、北京観光の知識も増します。まさに一挙両得といえるでしょう。

このように、『日本語による北京案内』は単に日本語で北京の観光資源を紹介する本にとどまらず、多種多様な機能を併せ持っています。本書を一読すれば、北京に来たことのない人は来たくなり、来たことのある人はもう一度来たくなると私は信じています。

私の浅学非才をもってしては、このような観光学の専門書を一読しただけですべてのよさを読み取ることは難しく、多くの長所を見逃しているだろうと思

います。読者の皆さんがそれらを読み取り、知識として身につけ、自分の知恵蔵を充実させることを切に望んでおります。

謹んでこれをもって推薦の序といたします。

2006年仲夏　北京書斎にて

はじめに

これは、日本語観光ガイドを目指す学生と一般人を対象とした『日本語による北京案内』のテキストです。長い歴史を持つ北京には、観光の対象となる資源が数多くあり、そのすべてを網羅することは不可能です。そこで、一般的な観光コースとして開発されている名所旧跡を中心に、できるだけ多くの北京の歴史遺産をまとめてみました。さらに、本書を三編に分け、第一編「これだけは知りたい北京」では、3泊4日ぐらいの典型的な北京観光コースを、初級ガイドにもそのまま使える基本的な内容と時間配分で紹介しました。

北京の観光は以下の日程で行なわれるのが一般的です。

第一日目：天安門広場、故宮、天壇

第二日目：明の十三陵、万里の長城

第三日目：頤和園等オプショナルツアー

しかし、限られた時間内の観光ですから、ある観光箇所について、そのすべてを案内することも不可能です。例えば故宮の場合、「外朝」を見たあと、通常「内廷」には行かず「珍宝館」を案内して「神武門」に出てきます。本書はこうした点を念頭に、上記の六箇所において、どのような日本語で、どのようなコースをたどって案内すればよいか、一応の基準を示しています。コースがいくつか考えられる場合は、「もう一つのコース」として紹介してあります。また実際の観光の場合、混雑する個所に長々と立ち止まって説明することはできません。ガイドの意気込みは分かりますが、長すぎるとお客様が飽きてしまい、グループをまとめるのが難しくなります。第一編は長さの点でも一応の標準と理解してください。この前後に、第三編に出てくる「空港からホテルまでの案内」「ホテル到着時点での案内」「ホテルから空港までの車内案内」を加えると、標準的な北京案内に関するかぎり、空港出迎えから、観光を終えて出国するまでの一貫した日本語による観光案内を完結させることができます。

第二編「もっと知りたい北京」では、中級～上級者向け教材として上記以外

の観光個所を詳細に紹介しました。北京についてかなりの知識と興味を持つ日本人リピーターを念頭においた観光案内です。

しかし、この場合も全部案内しなければならないというものではありません。観光地の案内は、究極的にはガイドが自分の言葉で、個性にあふれた内容を創造していくべきものです。しかしそこに到達するには相当の時間と経験が必要です。中上級者でも、きっと「ここでどんな日本語を使って、どんなふうに説明すれば、お客様によく理解していただけるだろうか」「どんな順序で案内すればよいのか」と悩んだことがあるはずです。本書は、そうしたガイドのための指針として書かれたものです。本書一冊を機械的に暗記するのではなく、あくまで自分のスタイルを確立するための参考書の一冊として、内容を取捨選択しながら利用されることを望みます。

日本人観光客を案内する場合、日本文化と比較しながら話を進めることも大切です。それにはガイド自身が日本文化を学んでいなければなりません。本書では関連する日本の事物や文化について「豆知識」として簡単に説明してあります。

またお客様の関心や興味に合わせて、あるいは時間調節のために「ちょっとした話題」も各項目の後に付記しました。「豆知識」も「ちょっとした話題」もガイド自身がよく消化して活用してください。ガイドの仕事には、観光案内のほかに「旅程管理」という重要な業務があります。第三編「優秀なガイドになるために」では、事前準備、空港業務、観光中の諸注意点等を、旅程の流れに添って具体的に説明しました。さらに実例をもとに、事故や問題点への対処法を付記してあります。これらの知識は、観光知識以上に重要になる場合もあります。

執筆にあたって、いくつか問題点が浮かび上がりました。その一つに固有名詞の発音の問題があります。例えば「光緒帝」をどう日本語で発音するかです。ある本には「こうしょてい」とルビがふってあり、別の本には「こうちょてい」となっています。黙読する書物の場合は、あくまで漢字の「光緒帝」ですみます。しかし、ガイドの言葉は「話しことば」です。中国の固有名詞を、日本語でどう発音するか。基準として「コンサイス外国人名辞典」（三省堂）、「世界史用語集」（全国歴史教育研究協議会編、山川出版社）、高校の「世界史」教科書（三省堂、山川出版社等）等を用いました。しかし、規準化された発音の無い固有名詞も多数あり、その場合は各種辞書をはじめ、手元の

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

資料を参考に、可能な限り正確を期しましたが万全とはいえません。読者からのご指摘をいただきながら修正を加えていく方針です。

取材にあたって惜しみなくご協力を賜りました各観光施設の諸先生方、実際にご案内くださり、懇切な説明と助言をくださった旅游地理の劉振礼先生、美しい日本語で録音してくださった中国国際放送局の鄭友恵先生に厚くお礼申し上げます。

また、以前から熱望されていた本格的な『日本語による北京案内』出版にあたって、多大なご好意とご尽力をいただきました中国旅游出版社の皆様にも深く感謝の意を表します。

徐　躍　小池晴子

2006年7月

目　　録

序 …… (1)
はじめに …… (5)

第一編　これだけは知りたい北京

一、北京市について …… (1)
北京概況、北京の略史
二、天安門と天安門広場 …… (8)
天安門、外金水河と外金水橋、石の獅子と華表、人民英雄記念碑の碑文とレリーフ、人民大会堂、中国国家博物館、ちょっとした話題
三、故宮博物院 …… (13)
バスの中で、午門、太和門、見取り図の前で、太和殿広場、太和殿、中和殿、保和殿、雲龍石、時計館、九龍壁、寧寿宮または珍宝館、珍妃井、神武門、もう一つのコース——内廷、乾清門、乾清宮、交泰殿、坤寧宮、御花園、ちょっとした話題
四、天壇 …… (40)
バスの中で、南門の見取り図の前で、圜丘、皇穹宇、九龍柏、丹陛橋、祈年殿、皇乾殿、長廊、宰牲亭と神厨、追加コース——斎宮、ちょっとした話題
五、明の十三陵 …… (54)
バスの中で、石牌坊、大紅門、大碑亭、神道、十三陵ダム、バスを降りるとき、定陵、もう一つのコース——長陵、

ちょっとした話題
六、万里長城 …… (70)
バスの中で、長城建設の歴史、八達嶺、烽火台、居庸関、雲台、詹天佑と京張鉄道、慕田峪長城、ちょっとした話題
七、頤和園 …… (79)
バスの中で、西太后、牌楼、東宮門、見取り図の前で、仁寿殿の庭で、知春亭、文昌閣、玉瀾堂、徳和園、楽寿堂、長廊、排雲殿、仏香閣、聴鸝館、石舫、智慧海、四大部洲建築群、蘇州街、南湖島、西堤、十七孔橋、耕織図、ちょっとした話題
八、わたしのおすすめ北京 …… (99)
北京の水上遊覧、胡同めぐり

第二編　もっと知りたい北京

九、北海公園 …… (102)
バスの中で、歴史と概況、見取り図の前で、団城、瓊華島、東岸、北西岸、ちょっとした話題、ついでに―― 景山
十、雍和宮 …… (124)
バスの中で、宝坊院、輦道院、雍和門院、雍和宮殿、法輪殿院、万福閣の庭、綏成殿、ちょっとした話題
十一、北京孔廟と北京国子監 …… (142)
バスの中で、成賢街、先師門、見取り図の前で、進士題名碑、孔子像、大成門、大成殿、崇聖祠、十三経刻石、成賢街の牌楼、集賢門、見取り図の前で、太学門、瑠璃牌坊、辟雍、東西六堂、彝倫堂、敬一亭、ちょっとした話題
十二、周口店北京原人遺跡 …… (157)
バスの中で、遺跡発見のきっかけ、「北京原人」の発見、「北京原人」の特徴、石器の製作と使用、火の使用、見取り図の前で、遺跡博物館、山頂洞遺跡、第 3 地点、第 12 地

点、第4地点、第15地点、鴿子堂、原人洞遺跡、国宝遺失の謎、ちょっとした話題、ついでに―― 盧溝橋、宛平城、中国人民抗日戦争記念館

十三、潭柘寺 …… (173)

バスの中で、見取り図の前で、牌坊、山門、天王殿、大雄宝殿、毘盧閣の庭で、戒壇、「金鑲玉竹」と「玉鑲金竹」、観音殿、竜王廟、円通宝殿、地蔵殿、舎利塔、方丈院、流杯亭、厨房、ちょっとした話題、ついでに―― 戒台寺

十四、白雲観 …… (183)

バスの中で、見取り図の前で、照壁、牌楼、山門、窩風橋、霊官殿、鐘楼と鼓楼、玉皇殿、三官殿、財神殿、老律堂、救苦殿と薬王殿、邱祖殿、三清閣と四御殿、ちょっとした話題

十五、円明園遺跡公園 …… (196)

バスの中で、円明園の創建、見取り図の前で、綺春園、長春園

第三編　優秀な観光通訳ガイドになるために

十六、これだけは知っておきたい観光ガイドの知識 …… (210)

観光ガイドとは何か、ガイド業務、ガイドの心得8ヵ条

十七、具体的な業務の流れ …… (212)

空港/駅への出迎え、空港からホテルまでの案内、ホテル・チェックイン、ホテルでの問題点とその処置、ホテルから空港までの車内案内

十八、観光中の注意点 …… (228)

事前準備、観光に付随する注意点、観光中に起きた事故の処理方法

付録 …… (233)

参考書 …… (246)

后記 …… (248)

第一編　これだけは知りたい北京

一、北京市について

♥ 北京市について説明する場合の注意

1. 北京の観光案内をする場合、まず北京市全般の説明をする必要がある。しかし、それをどこでするかが問題となる。通常は北京市内をバスで走っているときにするのがよいが、他のことを説明していて時間が足りないこともある。そういう場合は頤和園、あるいは明の十三陵と万里長城へのバスの中など、比較的時間のある時を選んでする。

2. 北京の地理や市街区の説明をする場合は、地図を用意して、説明している場所がどの部分かを示すと、分かりやすく親切である。

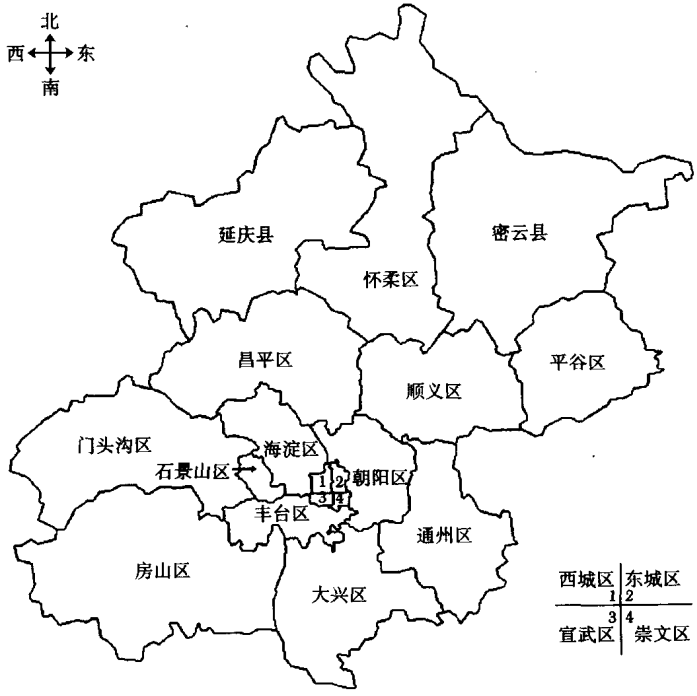
3. 固有名詞は、紙に書いて説明すると分かりやすい。そのためには、つねに大きめの紙とマジックペンを用意しておく。

☺ 北京概況

ここで北京市について簡単にご説明いたしましょう。皆様ご承知のとおり、北京は中華人民共和国の首都であり、政治、文化、経済、国際交流の中心地です。しかし地理的には、中国の中心ではなく北部に位置しています。緯度でいいますと、ほぼ北緯40度、日本の秋田市よりちょっと北に当たります。渤海湾から180キロばかり入った内陸部で、夏暑く冬寒い典型的な大陸性気候ですが、日本に比べますと大変湿度が低く快適です。

面積は16,800平方キロで、よく日本の四国の面積とほぼ同じといわれますが、これは行政上北京と呼ばれる地域全体を指す場合で、普通皆様が北京市と呼んでいらっしゃるのは、天安門広場を中心とする東西25キロ、南北20キロぐらいの、いわゆる市街区を指します。この場合はだいたい東京の市街区と同じぐらいとお考えください。その中でもかつて城壁に囲まれていた地域を、特に「城市」、城の市、といいますが、この城壁は1960年代に取り壊され、現在その跡に二環路と呼ばれる環状道路が走り、その下には環状地下鉄が走っていま

す。この二環路に囲まれた地区、すなわち城市は東京の山手線の内側とお考えいただければよろしいでしょう。現在北京はどんどん外に向かって広がっており、三環路、四環路、五環路という大きな環状道路が市街区をとり巻き、六環路も建設中です。



北京市

人口は2005 年末の時点で、約 1,538 万人。かつて、750 万人が都市部に、350 万人が農村部に住んでいるといわれていましたが、都市部の拡大につれて昔の農家は都市の戸籍を持つようになりましたから、農村部の人口が激減しました。都市部にはこの他に中国各地からの出稼ぎも多く、360 万人ぐらいの流動人口があるといわれています。

行政的には、北京は上海、天津、重慶と並ぶ中央政府直轄の特別市で、東京都庁にあたる行政機関は北京市人民政府と呼ばれ、その下に16の区と二つの県があります。日本と違って「県」と「区」は同格の行政単位です。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com